

336

全身用骨塩量測定装置の開発

田村 和行、田部井 俊明、木村 茂郎、川村 幸一

(アロカ株式会社)

近年、世代の老齢化と共に骨代謝疾患の重要性が言われる様になり、それに伴いこれ等の疾患等に対する骨塩量の測定が盛んに行なわれるようになってきた。また、測定部位に対する諸家の関心も前腕を主体とした抹消骨から腰椎を主体とした体幹骨にまでおよび測定対象部位が広範囲化する様相を見せている。今回我々は、X線装置を用いて全身用骨塩量測定装置を開発したので装置の概要と骨塩量測定装置としての基本性能について報告する。

337

全自動RIA装置 RIA-2000

田口 郁夫、松本 英幹

(アロカ株式会社)

全自動RIA装置 RIA-2000の動作フローを中心にしてその特徴を報告する。

- 検体サンプリング、試薬分注に始まり、インキュベーション、B/F分離、 γ 線測定からデータ処理にいたるRIAの全工程を自動化。
- ビーズ固相法RIA、IRMA、チューブ固相法IRMAに対応可能。
- 用手法検査に基づくアッセイを再現。
- キット処理条件に応じて3項目分の試薬を一度にセットでき、検体のランダムアクセスサンプリング可能、合計150アッセイチューブの範囲内でキットに合わせて3項目のマルチ処理が可能。
- 動作モードとして全工程を通して行う全自動処理の他、分注のみ、B-F分離のみ、測定データ処理のみ等、各工程分割処理も可能。